

---

# アーヴィング

ごはんライス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

アーヴィング

### 【NZコード】

N4487S

### 【作者名】

ジョンライス

### 【あらすじ】

エンディングがよくわからないな。落ちなしだ……。

アーヴィングが大学を出た時、後ろから知らないおっさんに声をかけられた。

「アーヴィング。久しぶりだな」

「え。誰、おっさん」

おっさんは当惑してる。アーヴィングは急ぎの用事があったので、歩き始めた。

アーヴィングには悪い癖がある。歩きながら、鼻くそをほじつて食べる癖だ。

これはやめた方がいいと作者は思つ。汚い。  
さつきのおっさんは居酒屋に行つた。

「大将。日本酒、熱燗ね」

「あいよ！」

「くそぅアーヴィングのやつ無視しやがつて。やけ酒だ」

居酒屋の大将、ムービング・モーヴィングには、娘が一人いた。  
そのうちの一人、ジャイアンは、中学二年生であり、中学でバスケをしていた。

作者、バスケがあまり好きではない。どちらかといつとバレーの方が好き。

では、みなさん。あなたは、バレーとバスケ、どっちが好きですか。

投票したいなあ。興味のあるところだが、まず話を進めよう。怒られる。アーヴィングは、彼女のマクドナルドのアパートに着いて、部屋で映画雑誌を眺めてた。

「アーヴィング。何の映画観る？」

「そうだねえ。うつむ

「ねえアーヴィング。ねえアーヴィング」

「うるさい！」

アーヴィングとマクドナルドは腕を組んで、映画館へ向かつた。途中、大学の後輩、モーターにあつた。モーターは、黒人で身長が一メートル近くある。

「モーター。お前、やべれとつを合ひてゐるらしくじゃないか。大丈夫なのか」

「それを言わないでよ。アーヴィング」

アーヴィングは、モーターの腹を殴つた。

「やべれとはつき合つた！」

「うわあああん。うわあああん」

マクドナルドが背伸びをして、よしよしとモーターの頭をなでる。

「ちょっとアーヴィング。いくら何でもひどいよ」

「うるせーーー！」

その頃、居酒屋でおつさんが、酔っぱらって、踊っていた。両手を上げて、腹を振つている。「ほい。ほい。よつ。ほい！」「いいぞーおつさん」「サイロー」

その居酒屋の奥の座敷で、マーケティングとモーツァルトが、鍋をつつきながら酒を酌み交わしていた。

「モーツァルト。お前、あれどうすんだよ。例のやつ

「どうしようかねえ。あれねえ」

例のやつは実に一億円の利益が見込める。

無論、リスクも大きいわけである。だから、恼む。

ちなみに、モーツァルトの母親は、卖れないダンサーをしている。ミーティングといつも前で、ミーティングダンスといつのを開発した。

なかなか面白いダンスなので、みなさん、一度観に行ってください。

さて、アーヴィングは、何をしてる。吉島せーん。吉島せーん。

「はい。吉島です。現場ではすゞいことになつてます。まずは映像をじらんください」

アーヴィングがマクドナルドをぼこぼこしてゐる残酷な映像が流

れる。

「はいストップ。もうやめて！ これはいかん！」

映像はストップされた。CM入ります。

もつじゅもじゅ饅頭。もつじゅもじゅ饅頭。上から下までもじゅ  
もじゅ、もじゅ饅頭。

今なら大サービス、150円ー。みんなでもじゅひー。  
テレビのチャンネルを変える松下。「お。」これ面白ひうだから見  
よう

メソッドが、逆立ちして、町を歩いている。

「よう。メソッド。陽気な逆立ちだね」

「えへへへ。逆立ちもラクじゃねえですか」

「違ひねえ」

そんなメソッドに向かって、トラックが。

「はいストップ！ だめ。残酷。却下」

いつたん、CM入ります。

もつじゅもじゅ饅頭。もつじゅもじゅ饅頭。上から下までもじゅ  
もじゅ、もじゅ饅頭。

今なら大サービス、おまけのモジヤマンもつひー、150円。み  
んなで、レッシもじりんぐ！

松下が「もじゅ饅頭買おうかなあ」と思つ。

松下は、テレビを切つて、ジャンバーを着て、外に出た。  
歩いてる途中、前を見て、あつと思つ。

男性が女性をおぶつて歩いてる。どこかで見たやつ。

「アーヴィングとマクドナルドだ」

「ごめんね。マクドナルド」

「つうん。」しつこそごめん、アーヴィング

松下はサインをもらいたがつたが、バイトに遅刻すると思つてあ  
きらめた。

松下はちょっとお腹がすいたなと思い、コンビニに入った。

「お。ラッキー」

カウンターを見ると、大好きなモンバーリンボーちゃんがいる。

「モンバーちゃん、相変わらず、かわいいなあ」

ふと棚を見ると、もじや饅頭が置いてある。「本当にもじやもじやだ。気持ち悪いな」

松下は、ふと前を見ると、同級生のマッケンジーが、エロチックな雑誌を手にとり悩んでいた。まさか買つつもりか。買つつもりなのか。

松下はドキドキしながら眺めていた。マッケンジーは、エロチックな雑誌を棚に戻し、再び、別のエロチックな雑誌を手に取つて悩んでいた。

松下はハラハラする。やはり買うのだろうか。それとも買わないのだろうか。いつたいどっちなのだ。どっちなのだ。

松下は、よしオレも、と思い、マッケンジーの隣へ行つた。

「ま、松下」

「やあ。マッケンジー」

しかし、松下もエロチックな雑誌を手に取り悩んでしまう。だってカウンターには……。

エロチックな雑誌の気持ちほんな感じであるつか。

「さっさと決めてよ！　このちんかす野郎ども！」

とエロチックな雑誌は思つていてるのかもしね。思つてないのかもしれない。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4487s/>

---

アーヴィング

2011年4月13日21時25分発行